

## (1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織能力の向上	<p><b>中長期的な重点取組の1</b> 「生徒に基本的な生活習慣の確立や部活動・資格取得等への積極的なチャレンジを促し、基礎学力やコミュニケーション能力・体力を向上させ、生徒一人ひとりの希望進路実現を図る。」</p> <p>(1)生徒の実態に即した授業改善を目指し、「なかみ」の指導を充実させる。</p> <p>(2)進学・就職内定100%を目指し進路未決定で卒業する生徒を2名以下とする。(昨年度4名)</p>	<p>(1)5月と10月に授業公開週間を実施。保護者や中学校教員、地域関係者が参観。生徒や参観者の声を反映した授業改善につなげた。授業力向上に関する教職員満足度は前年度65.4に対し68.3、授業規律に関しては前年度65.4に対し66.9となり向上(学校経営数値)。</p> <p>(2)各学年で機会あるごとに話をし、生徒の進路に関する意識向上を図った。3年生全員が早くから活動し全員の進路先(進学17名・就職58名)が今年度決定し、未決定者0名。</p>	<p>(1)生徒の基本的な生活習慣の確立は遅刻数や頭髪服装違反件数、問題行動特別指導件数が年々減少し、生徒の「そとみ」の指導が功を奏す。今後は授業公開週間を切り口にして授業改善を目指し、「なかみ」の指導をよりいっそうの充実を図っていく必要がある。部活動状況は1月現在1年生の7割(56名)が何らかのクラブに加入。資格取得についても積極的受検を今後生徒に促していく。</p> <p>(2)高校卒業時の「新卒」枠で就職するチャンスを生徒が無駄にしないよう指導を継続していく。</p>
地域との連携	<p><b>中長期的な重点取組の2</b> 「情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。」</p> <p>(1)中学校訪問を積極的に行い、本校の現状を話すことによって情報発信を行う。</p> <p>(2)地域アンケートを実施して、ニーズを把握する。</p>	<p>(1)新聞各社報道(延べ)100回以上。本校の教育活動等の新聞掲載記事を資料にして地元中学校に持参。中学校訪問は伊賀地区に加え亀山・鈴鹿・四日市・松阪地区の各中学校を訪問。12月19日現在での県内中学3年生の本校への進学希望状況は前年度91名に対し今年度99名。後期志願倍率1.49で過去最高。</p> <p>(2)地域アンケートは前年度の平均値59.5に対し今年度73.0となり向上(学校経営数値)。</p>	<p>(1)地域との交流は年々進んでおり、学校理解は高まっている。今後も引き続き積極的な情報発信に努めるとともに、地域と交流し、地域から学ぶことで生徒が成長し、学校の活性化や地域貢献につなげていくことが大切である。</p> <p>(2)近年「美容」がマスメディア等に大きく取り上げられる機会が多くなってきているが、本校の4系列それぞれの内容・特色を生かしたさらなる地域との連携・交流を図ることが今後の課題。</p>
仕事環境の整備	<p><b>中長期的な重点取組の3</b> 「学校行事・会議・部活動等の精選・見直しも含め総勤務時間の縮減を図り、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるよう努める。」</p> <p>(1)教職員のワーク・ライフ・バランスを推進する。</p> <p>(2)勤務時間の縮減だけにとどまらず、取組において若い教職員が意見を言い、活躍できる機会を提供する。</p>	<p>(1)定時退校日を年7回(定期考査と長期休業中に各1回)、年休取得数10日以上と設定。定時退校日は毎回9割以上達成。年間平均年休取得日数は13日と20分間で目標達成。</p> <p>(2)8/20(木)に「清掃デー」を若い教職員が企画。約7割の20名の教職員が参加。職員室や保健室、休養室の清掃活動を行う。2/24(水)は生徒の学習環境整備(移動時防音対策)を図るため、机や椅子の脚にテニスボール設置。</p>	<p>(1)定時退校日を通してワーク・ライフ・バランスを考える契機にしたり、総勤務時間が縮減できる環境づくりを進める。年休が取得しやすいよう業務の効率化や連携協力体制づくりを進める。</p> <p>(2)若い教職員の活動の機会を中心的な担い手となる教職員と相談し無理のない範囲で企画する。そして、教職員が活動を共にする中で、相互理解やチームワークが生まれるようにして、教職員が元気にいきいきと職務を遂行できるようにする。</p>

## (2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"><li>・登校指導、集会指導、イエローカードを用いた授業規律の確立等、教職員が同じベクトルで取り組んでいる。</li><li>・情報発信を積極的に行うことで、地域住民・保護者の学校理解が進んでいる。</li><li>・近年は入学志願者が定員を上回り、生徒や教職員の自信や誇りにつながっている。</li><li>・きめ細かな指導や習熟度別少人数講座、その他多くの講座などを設定し、生徒の実情や要望に見合った授業を提供している。</li><li>・教職員が生徒と徹底して関わり、仲間づくりと人権意識の醸成に力を入れている。</li><li>・生徒のために学校をよりよくしようという教職員の姿勢はアンケート結果の「学校経営に参画している」という意識の高さにも表れている。</li></ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の在職期間が短く、入れ替わりが激しいことから、着任者が学校に慣れるまでに時間が費やされ、長期的な視点での取組が難しい。</li><li>・中間・期末評価のアセスメントが十分に実施できていないため、業務の精選・効率化が図りにくく、新しい活動に結びつかない。</li><li>・本校生徒の実態に即した研修等、教職員の切実な要望に応じた研修を企画しきれず、また研修に参加する時間的な余裕も少ない。</li><li>・分掌間や学年間での情報共有がまだまだ不足している。教職員の意見を吸い上げ、改善に資するシステムが必要である。</li><li>・地元小中学校との交流や地域連携は進んでいるが、今後も継続して実施するための組織づくりや実施計画づくりが課題である。</li></ul>

## (3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞ 3 回	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校関係者評価委員5名、校長、教頭、事務長、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、人権教育担当の合計12名で構成。</li><li>・第1回は主に前年度の学校評価の報告、新年度の「学校経営の改革方針」について説明し意見交流。</li><li>・第2回は各学年・分掌の中間評価と各種アンケート結果について報告・説明し意見交流。</li><li>・第3回は各学年・分掌の年度末評価と各種アンケート結果について報告・説明し意見交流、次年度の改善課題について検討。</li></ul>

## (4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒たちがすごく頑張っている様子が新聞や地域情報誌、ケーブルテレビ等で紹介されて大変嬉しく思う。継続して情報発信してもらいたい。</li><li>・「美容」の取組は昨年度「高校生美容室」開設、今年度は伊賀市とのシャンプー・トリートメントの共同開発と続き、今後に大いに期待する。</li><li>・「黒豆」の活動を地域の人たちと一緒にしたり「地域開放パソコン教室」で生徒たちが地域の人たちに教えたりしていて、すごく評判が良い。</li><li>・たくさんの地域交流をしてもらっていることは大変良いこと。より多くの生徒が地域交流でいろいろな体験ができるとさらに良いと思う。</li><li>・学校の評判は一人ひとりの先生の姿を通して広がっていくので、3クラス制で生徒に親身になってくれる先生たちの姿は大変良いと思う。</li></ul>

## (5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
<ul style="list-style-type: none"><li>・学校通信の発行をはじめマスメディア等による情報発信を通して、中学校や地域住民・保護者に学校をよりいっそう知ってもらう機会をつくる。</li><li>・わかる授業による生徒の基礎学力向上を目指して授業公開や授業研究を推進して、学校組織全体の取組として授業改善を行っていく。</li></ul>	

- ・小規模校のメリットを最大限に生かし、一人ひとりの生徒の情報を共有しながら、引き続き全教職員できめ細かな生徒指導に取り組んでいく。
- ・「産業社会と人間」「総合研究」「インターンシップ」を柱とするキャリア教育の系統的な構築を組織的に取り組んでいく。
- ・本校の4系列それぞれの内容・特色を生かしたさらなる地域との連携・交流を図っていく。
- ・生徒に対する指導時間の確保や、教職員の健康維持のため、会議の精選や組織の見直しを図り、業務の効率化に努める。